

平成26年8月27日(水)

老球の細道53号

人は「出会い」で変わりうる

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

しばらくぶりに知人と出会った時、「お変わりありませんね」などと挨拶をかわすが、半年、あるいは1年ほど会わずにいると、分子のレベルでは私達はすっかり入れ替わっていて、お変わりありまくりなのである。分子「別人28号」になっている。

人間の体にある細胞の数は60兆ある。これらの細胞は常に分裂を繰り返しながら、古いものは死んで新しく生まれたものと交替している(新陳代謝)。白血球のような寿命の短い細胞は4、5日で入れ替わり、心臓の細胞なら4ヶ月、肝臓や胃、肺等の内臓器官になると約半年。筋肉の場合は、9ヶ月で新しくなる。例外はガン細胞。新陳代謝が行われず、栄養を与えられている間は分裂しながらひたすら増殖するだけだ。

細胞、組織レベルで考えると私達は常に日々新なり、歳々年々人同じからずなのである。それなのに意識のレベルが変わらないので全体的にずっと同じ自分であるかのように錯覚をしている。確かに身体は変わっているかも知れないが、私達は人間的に成長して、進化して変わりたいのである。人は変わりうる存在で、毎日がそうでありたいと願う。

「考えが変われば 行動が変わる
行動が変われば 態度が変わる
態度が変われば 習慣が変わる
習慣が変われば 人間が変わる」

そもそも「考え」が変わらないかぎり人間は変わりようがないようだ。考えが変わるようなきっかけは、今までの自分自身の生き方を否定するような(「このままではいけない!」)モチベーション噴火を起こす刺激的な「三つの出会い」が必要であろう。

一つは「人物との出会い」。凄い人物に会う。生の人間に直接会えなかったら本の中、映画の中にもたくさん存在している。凄い人物に生き方のモデルになってもらう。「かっこいいなあ!俺もあんなふうになりたいなあ!」。ちなみに、異性との出会いでも人は変えられる。誰が言ったのか、「男は歴史を変え、女はその男を変える」。

二つめは「言葉との出会い」。琴線に触れるすばらしい言葉に勇気を与えてもらおう。「この世に生を受けたるは事をなすことにあり」(坂本龍馬)

「我、事において後悔せず」(宮本武蔵)

「人は希望と共に若く、失望と共に老いる」(ウルマン)

その一言から勇気をもらえ。その一言に励まされ、その一言から夢と希望が与えられる。言葉には魂がこもっている。

三つ目は「本物との出会い」。何でもいい。その分野の日本一、世界一のものに触れよう。本物との数多い触れあいによって感動し、感性を磨こう。それが、やがては偽物を見極める心眼を育て、独創性を築き上げるエネルギーとなるだろう。先日、知人からいただいた日本一のネギ(下仁田ネギ)を食べた。ネギは料理の脇役だなどと甘く見ていた私は恥ずかしくなった。生きていて良かった。脇役の凄さにネギらってもらった。

出会いは待ち受けではやってこない。すばらしい出会いは自分自身に求める気持ちがあれば見つからない、気づかない。飽くなき向上心と好奇心のなせる業である。